

(様式 1)

## 令和 6 年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立両国小学校
校長名	渡邊 圭三

### 1 本校の学力に関する状況

#### (1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"><li>・全ての学年、領域で全国平均をほぼ上回る。3年国語、6年国語・算数は、3観点中2観点を全国平均を10P以上上回る。</li><li>・観点別で状況が良いのは、国語の「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」、社会の「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」、理科「思考・判断・表現」、算数の「思考・判断・表現」で、全学年で全国平均を5P以上上回る。国語の「主体的に学習に取り組む態度」で、3つの学年で全国平均を10P以上上回る。</li><li>・基礎・活用別では、全ての学年で全受検教科の平均正答率で全国平均差が基礎より活用がほぼ上回る。</li><li>・教科全体の経年変化で伸びているのは、3年国語・算数、5年国語・社会・理科、6年国語・算数である。</li><li>・D・E層の割合の経年比較では3年算数、6年算数で各4.7P、7.8P減少している。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>→6年理科の「知識・技能」平均正答率は全国平均と同じで、他の教科と比較して数値が低い。</li><li>・領域別で、国語「書くこと」の平均正答率は、3～6年では全国平均より15P程度上回るが、2年では2P程度にとどまる。算数においては、2～5年「測定」で5P程度、4・5年「図形」で3P程度にとどまり、他領域に比べて低い。</li><li>→基礎・活用別では、4年理科、5年国語・算数で、基礎より活用が下回る。</li><li>→4年国語・算数で3P程度、6年社会で6P程度下降する等、伸び悩んでいる。</li><li>→同比較、4年、5年の算数では上昇し、割合の減少に至っていない。</li></ul>

#### (2) 意識調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"><li>・「テストで間違えた問題を後でやり直している」の肯定率は83.5P～88.5Pの範囲内で、全学年で全国平均を上回る。今後も習慣化を図り、取組を徹底させていきたい。</li><li>・「ノートの取り方について自分なりの工夫をしている」の肯定率は6年82.1Pで、全国平均より9.5P上回る。</li><li>・「友達の意見を聞いて新しいことに気付いたり自分の考えが深められたりして面白い」の肯定率は5年73.4Pで、全国平均を4.2P上回る。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・「勉強するときは、自分で計画を立てている」の肯定率は5年53.2P、6年54.8Pで、全国平均より各5.6P、3.3P下回る。</li><li>→5年の肯定率は72.1Pで、6年より10.0P、全国平均より3.5P下回る。</li><li>・「不思議だな、どうしてだろうと思ったことを調べている」の肯定率は、学年進行とともに低下し、2年66.7Pに対して6年50.0Pである。</li></ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・「タブレット端末等を使って話し合い活動が深まる」の肯定率は4年 56.5P、5年 73.4P、6年 73.9Pと学年進行に伴い上昇傾向にある。</li> <li>・「話し合いをするとき自分の意見を積極的に発言している」の肯定率は5年 73.4P、6年 65.5Pで、ともに全国平均を上回る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「考えたり頭を使ったりすることがすき」の肯定率は4年 60.0P、6年 60.7Pに対して、5年 46.8Pと5割を下回る。</li> </ul> <p>→4年の肯定率は60.7Pで、5年より12.7P、全国平均より10.1P下回る。</p>
--	---

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

授業規律・宿題の状況・定着を図る取組の徹底度合い等、学習につながることのみ記入。

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流や話し合い活動で自分の考えを友だちに話す力は付いてきている。</li> <li>・書く活動の際には、必ず視点を示すようにした。また、朝学習で作文を書かせたり、家庭学習で日記に取り組みせたりするなどして、書く活動機会を多く設けた、自身の力の高まりを実感させている。</li> <li>・漢字を書く力がついてきている。漢字ドリルや漢字のテストを繰り返し行うことで、しっかりと定着してきていると考える。家庭学習で基礎基本を身に付けさせ、文章を書く際には、既習の漢字を必ず使うことを指導している。</li> <li>・DE層の減少が見られる。朝学習や苦手分野に絞ったピンポイント学習、また、ミライシードやふり返りシートを継続的に活用し、基礎学力の向上を図ったことが要因だと考える。</li> <li>・音読、漢字練習は毎日、計算練習は週2～3回、週末には日記に取り組みせ、ほぼ全員提出されている。</li> <li>・年度初めは、毎日提出する習慣がない児童が多かった。毎日チェックと声掛けを行い、やっていない児童には休み時間や放課後に取り組みせるようにして、児童の提出が定着してきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>→友達の発言を聞くことはできるが、それを生かして自分の考えを深めることが難しい。</li> <li>→活発に話し合っている児童とそうでない児童がいる。より多くの児童が発言できるようにする手立てと、話し合う機会を充実させる手立てを講じていきたい。</li> <li>・書く際にモデル文を提示したり、友達との交流で気づいたことを書かせたりしながら、自分の考えの表現につなげられるよう指導している。</li> <li>・ノートまとめなどの際に、既習事項を十分に振り返ることができている児童は少ない。</li> <li>・算数の面積や体積の公式が定着するよう、ピンポイント学習の時間などを活用して反復練習をした。</li> <li>→基本的には宿題をしてくれているが、家庭での協力が得られず、丸付けややり直しをしてこない児童がいる。</li> <li>→作業的に取り組むのではなく、自分の力が伸ばせるように丁寧に取り組もうとする姿勢を育てていく。</li> <li>・自主学習のような自分で考えて取り組むことにハードルを感じる児童がいるので、個別に指導する必要がある。</li> </ul>

## 2 本年度の学力向上に関する主な取組

上記の状況を踏まえ、本校がこれまで継続してきた「両国小・学力向上6つのチャレンジ」を年度始の保護者会で提示し、全校で取り組む。PTAや地域の方にご協力いただき、全学級の児童机・椅子の脚部分にテニスボールを装着し、消音効果を高めて聴覚刺激を低減し、学習に集中できるようにした。また、夏季休業中に教室内の電子黒板を新しいものに置き換え、ICT機器がより効果的に活用できるよう、環境整備に努めている。

### (1) 必ずテスト直しをすること（高学年では自己分析と学習計画も）

全学級で取り組んだはずであるが、「いつもやり直している」という意識の児童は学年進行するにつれて低下している。「やらなくても済んでいる」状況があり、個人差・学級差が生じている。第5・第6学年においては、直すだけでなく、誤答の原因を分析させ、そのためにどのような学習が必要なのか、主体的に計画を立てられるように指導する。

### (2) 辞書をいつでも引けるようにすること

3年生以上は一人一冊、自分の国語辞典が教室内にあり、国語以外の時間にも必要な時には使えるようにしているとともに、家庭にも呼びかけ、辞書に親しむ環境を整えている。高学年の児童の語彙力は極めて高いので、他学年にも波及できるように、さらに習慣化するよう指導する。低学年については自分で辞書を引くことが難しいので、学級で語彙を増やせるような活動を行っている。

### (3) 地図帳をはじめ様々な地図や地球儀等を活用すること

「いつでも地図帳を」を呼びかけ、机の中にいつでも地図帳を入れておき、社会科の授業に限らず地名を見たらすぐに地図帳で調べるようにしている。また、タブレット端末で地図パズル等のアプリを使えるように環境を整え、児童が楽しく地図に触れる場面を増やすようにする。地球儀も身近に置き、活用を図る。

### (4) 理科実験OJT及び理科室や学校園等の理科学習の環境整備

これまでと同様に「理科実験OJTの実施」「理科室及び準備室等の環境整備」等、理科学習の充実を図る。特に「理科実験OJTの実施」においては、実験における安全管理を最大の重点としつつも、理科の問題解決型学習の進め方についても共通理解を図り、授業力の向上を目指す。

### (5) 「両国小 板書・ノート作りの手引き」の活用と加除修正

「両国小 板書・ノート作りの手引き」を学力向上委員会と国語・社会・算数・理科担当が協働で作成し、全教員に配付された。その手引きをタブレット端末内で常時閲覧でき、授業改善に活かすことで、全学年の板書やノート指導が充実してきた。さらに、加除修正を加え共通理解を図る。

### (6) 「ピンポイント学習」の継続実施

各学年の苦手分野を朝学習で一斉に取り組む「ピンポイント学習」（月1回）を確実に実施したことにより、学力状況調査の結果に結びついた。調査結果の分析を基に苦手分野を明らかにすることとともに、全学級が同時に「ピンポイント学習」に取り組み、継続することが更なる成果を生み出すことになる。

### (7) 校内研究の取組

校内研究では、研究主題を「自分の考えをもち、伝え合う児童の育成」、副主題を「各教科・領域の特質に応じた適切な言語活動を通して」とし、研究を深めていく。本校では「伝え合う力」を「互いの立場や考えを尊重し、言語を通して正確に理解したり適切に表現したりする力」と定義し、専科教員も含めた各学年の希望する教科・領域で授業研究に取り組む。また、全校で常置活動を検討・設定し、児童の伝え合う力を育めるようにする。

## 3 「令和7年度 墨田区学習状況調査」における目標

### (1) 目標

- ・ D・E層をC層に引き上げること。B層の上位をA層に引き上げること。
- ・ 意識調査において、「テスト直し」「自分で調べる」の完全定着を全学年8割以上に高めること。
- ・ 令和6年度の学習状況調査で平均正答率が低かった問題を「ピンポイント学習」で克服すること。